



# (財) 福澤記念育林会 「育林友の会」ニュース

第4号 発行日 2003年7月14日  
財団法人 福澤記念育林会  
東京都港区三田2-15-45  
慶應義塾 管財部 管財課  
TEL 03-5427-1532  
FAX 03-5427-1533  
<http://www.f-ikurin.jp>

## 石川武 塾監局長のメッセージ

### 森林と“森林族”を育てよう

石川 武 育林会理事  
(慶應義塾塾監局長)

財団法人福澤記念育林会は、1965年(昭和40年)1月、ちょうど自身の三田の学生の時代に設立されたものですが、慶應義塾が百年をかけて森林を育てるという話を聞いて、夢はあっても何とも気の長いそして意表をつかれたような印象を受けたことを覚えています。

当時の高村塾長が、財政的に苦境にあった(昭和40年は、世間で「親孝行ストライキ」と呼ばれた、義塾創立以来はじめての全塾ストを伴う学費紛争の年です)慶應義塾の将来を苦慮され、百年にわたって慶應義塾の財政基盤を安定させるために育林会を設立され、植林活動を始められたものです。

しかしながら、いまや植林事業をとりまく社会経済環境はすっかり変わってしまい、義塾における育林事業のキーワードもエコノミイからエコロジイへと大きく変わってきています。

設立当初から、多くの林業三田会の方々の好意によって支えられてきたもので、当初は将来のための植樹と財政支援が中心でしたが、設立30周年(1990年代半ば)の頃から、新たに寄贈を受けた志木の森(三重県大台町・大宮町)や幼稚舎の杜(静岡県修繕寺町)を中心に、志木高生や幼稚舎生等が毎年のように出かけ、その時々には森林体験研修や地元の人々との交流活動を行ない貴重な体験を得ることが主要テーマになってきました。

この「育林友の会」も2001年に設立され、福澤育林会の森林育成をサポートすると共に、森林体験、森林文化や環境保全の教養の研鑽に貢献しています。

設立当初に比べて育林会の育てる森林も30ヘクタール弱から、現在は160ヘクタールに広がり、それら山林で慶應義塾の木がすくすくと育ってきています。一つの問題は、昨今では保有山林が増えるほど、途中、伐採できるようになるまでの間の経済的負担が増し、時には維持することさえ困難となり、「育林会」の活動も思うに任せない状況に直面することです。

今日、環境問題・資源問題、そして森林問題は益々重要な問題として脚光を浴びてきていますが、「育林友の会」の皆様のご協力により、木と共に人を育て、そして学生・生徒の時代から森林を体験し、森林に親しみ、森林の大切さを心の奥底から理解できる“森林(親林)族”を育てる「育林会」と「育林友の会」に発展していくことを願ってやみません。



石川武理事のメッセージ	1
岡山への研修旅行の案内	2
岡山落合町山林の紹介	2
幼稚舎の杜での植林	3
連載「光をもとめる林床の花々」	4
平成14年度会計報告	4



長沖助教授の文中にある銀蘭 金蘭は黄花

## (財)福澤記念育林会

### 「岡山県落合町の山林と瀬戸内オリーブ園、備前焼窯元藤原啓記念館を訪ねる旅」

**日程**; 平成15年9月6日(土)から7日(日)(1泊2日)

**申込**; 育林友の会ホームページからお申込下さい。 <http://www.f-ikurin.jp>

**締切**; 準備の都合上、締切日は平成15年8月10日とさせていただきますが、定員(40名)に達し次第、募集を終了させていただきますので、お早めにお申込下さい。

#### 行事

- 服部弘平氏から福澤記念育林会に寄贈された森林の寄贈式典に参加し、その森林を見学。
- 瀬戸内に面したオリーブ園を訪れ、特性パエリアとワインの昼食を頂く。
- 備前焼は人間国宝 藤原啓、雄、父子を受け継ぐ窯と藤原啓記念館を見学し陶芸体験。

**集合**; 9月6日(土)13:20 JR岡山駅西口集合(現地集合)

**宿泊**; 岡山国際ホテル〒703-8274 岡山市門田本町 4-1-16

**費用**; 1人 29,000円 (現地で徴収)

1日目(9月6日 土曜日)	2日目(9月7日 日曜日)
13:20 JR岡山駅西口集合	08:30 岡山国際ホテル発
13:30 バス乗車JR岡山駅発 両備バス	08:45 後楽園見学
15:00 落合町山林着	09:30 後楽園出発
15:10 式典開始	10:30 牛窓町 オリーブ園着 見学
15:30 式典終了後山林見学 (現地散策と山荘見学)	11:30 昼食(特性パエリア&ワイン)
17:00 落合町の山林を出発	12:30 牛窓町出発
18:45 岡山国際ホテル着	13:30 備前市 藤原啓記念館 陶芸体験
19:30 懇親会	15:30 備前市 現地発
	16:30 岡山駅着

### (財)福澤記念育林会の山林紹介 (岡山県落合山林)



この森は岡山県在住の服部弘平氏から寄贈を受けた山林で 2.55ha の山林です。

場所は中国自動車道の落合インターチェンジから至近の場所にあり、大阪から車で2時間弱、新幹線岡山駅から1時間30分の距離にあります。また落合インターから山陰方面にも高速道路があり、大阪・神戸・岡山・広島・鳥取・島根と西日本の皆様にも身近な福澤記念育林会の森です。

写真でもお分かりかと思いますが、山というよりも丘といった緩傾斜の森で林内を散策するのも容易です。植生は非常に豊かで樹種として

は次の様なものを見ることが出来ます。

【高木・亜高木】アカマツ、カラマツ、ヒノキ、コナラ、アベマキ、ハウノキ、コシアラブ、ヤマザクラ、ソヨゴ、リョウブ、シラカシ、ゴンズイ、クリ、ウルシ、イヌシデ 等

【低木】ヌルデ、ヤマハゼ、ネギシ、クロモジ、イヌツゲ、ヒサカキ、ナワシログミ、アオキ、ネムノキ、コバノミツバツツジ、ウリノキ 等

キノコも何種類か見受けられ植物に興味を持つ方々にとって大変興味ある森です。今年は学生達の手により樹種を示す標識看板の設置を計画しています。楽しみにしてください。



## 第5回修善寺「幼稚舎の杜」植林

(財)福澤記念育林会行事

開催日：平成15年3月8日(土) 場所：修善寺「幼稚舎の杜」 参加者：幼稚舎生17名 保護者：3名  
教職員：16名 その他(幼稚舎の杜寄贈者井草様・修善寺町長・森林組合など)：11名



今年も快晴の下、修善寺にある「幼稚舎の杜」にて、幼稚舎生を対象に植林行事が行われた。

植林地近くのホテル(ラフォーレ修善寺)にて、幼稚舎馬場先生の司会のもと福川幼稚舎長と田中常任理事による森林のお話があり、その後バスで「幼稚舎の杜」へ。第1回目に植えた木の太さ・高さの測定を行った後、植林地にて修善寺町長のお話、森林組合の方による植林方法の説明を聞き、参加者全員で植林が行われた。前日の雨にもかかわらず土の状態も良く、常任理事や舎長も幼稚舎生に交じり、汗をにじませ、楽しい植林体験が行われた。

植林後、植林地近くのシイタケ栽培地へ立ち寄り、シイタケの菌

(種)をクヌギの木に植える体験が行われた。木に小さな穴をいくつも空け、

先輩の植えた木の成長を記録する

そこに金槌で種を埋めていく作業も、幼稚舎生には新鮮な体験となった。今年の「幼稚舎の杜」植林行事も、幼稚舎生にとって思い出に残る一日となったのではないだろうか。



### 1本1本大切にしなければいけない

4年E組白子雄太郎

3月8日、幼稚舎の杜へ植林のお手伝いに行きました。僕は木を植えるのが初めてだったので、植林とはどのように行うのかとても楽しみにしていました。

はじめに現地の方が植え方を教えて下さいました。僕たちが植えた木はクヌギでした。深さ約30cmの穴に約80cmの高さの苗木を植えました。その時土をかける前に、肥料になると思って落ち葉を入れていたら「それはいけねー。いけねー」と言われました。どうしていけないのか聞いてみたら、木が枯れてしまうからだそうです。けれど土をかけた後なら、肥料になってとてもいいそうです。

植林が終わると次は穴のあいたクヌギの丸太にシイタケの菌を金づちでたたいて植えました。この時の注意は思いっきりたたかないということでした。2、3回たたいたら菌はすぐに木に入りました。最後にここで取れたシイタケをお土産にいただきました。このように木を植えるのも菌を植えるのも初めての経験でした。

家に帰って植林の様子を話しました。すると木について祖父がいろいろ話してくれました。森は雨の水をためて適度に谷に流し、川にするそうです。ダムを作り農業や工業や人々の水道にも利用されています。また木は空気をきれいにしたり地球温暖化を防いだりするそうです。木は何十年、何百年もかかって大きくなります。木は1本1本大切にしなければいけないと心から思いました。20年、30年後修善寺に行って僕の植えた木がどれくらい大きくなったか見てみたいです。



## 連載 - 「光をもとめる林床の花々」



日吉のシュンラン

今年、久しぶりに日吉の森でキンラン、ギンランを見た。荒れた雑木林の中のちょっとした光が差しこむ空間に、光を求めるかのように咲いていた。

1980年代後半、自然調査をしていた頃は毎週森を歩いていた。ウグイスカグラやヒトリシズカ、シュンランの花が春を告げ、夏にはオオバギボウシが、秋にはヤクシソウ、アキノタムラソウがと林床の花々が目を楽ませしてくれた。

そのいくつかは、もう日吉で見ることにはできない。管理されず、光が入らなくなった雑木林で、いつの間にか姿を消した植物。そして、盗採によって、人為的に姿を消した植物。

当時からキンランやギンラン、エビネは個体数も少なかった。それに加え、ランなどは野草狩りの標的になる。きれいに咲いたので見ようと他の人を連れて行ったら、前日にあったエビネやギンランが影も形もないというようなこともあった。

2003年、まだキンラン、ギンランは森の中で生きのびていた。実を言うとこの出会いは怪我の功名なのだ。88年から毎年早春にシュンランの固体追跡調査を続けているが(ちなみに88年から今年までに調査区域だけでシュンランがなんと68個体盗まれている)、今年是新学期の業務にばたばた追われ、調査が例年よりも遅くなり、そのおかげだった。まだまだ日吉の森も捨てたものじゃない。エビネもまだどこかに残っているのだろうか？

岸由二さんが1、2号で書いているように雑木林の復活作業がはじまっている。一の谷では、笹藪を刈った斜面に今年の春もジウニヒトエやフタリスズカの花が咲き誇り、ピオトープには今トンボが飛び交っている。そして今年も大学生が、普通部生が作業を続けている。一の谷から広がって、もっと人の手が入っていけば、さらに復活する生き物たちが出てくるはずだ。

1500種以上の動植物が棲む日吉の森。市街地に残る貴重な自然を守り、回復することができなくて知の府・大学とは言えないだろう。恒常的に人の手が入り、学生が、そして地域の人々が森と出会い、ふれあうことによって、雑木林は生きていく。人々が関心を持ち、人の眼があることで盗採も防げるのではないか、遠回りだけど、きっとそれしかないのだろう。

エビネとマムシグサ、子どもの頃、初めて知ったその名前の奇妙な響きは姿の不思議さとともに、長く印象に残っている。カブトムシやクワガタを取った人もいよう。日吉の森は、思い出の中の森ではなく、今生きている人とともにある雑木林になれるのだと思う。

## 育林友の会 収支(平成14年度)

	収入	支出
前年度繰越し分	¥1,349,092	
平成14年度		
収入		
会費	¥1,985,000	
研修旅行参加費	¥1,020,000	
利息	¥37	
支出		
学生経費補助		¥40,000
研修旅行経費		¥829,935
通信費		¥15,140
手数料		¥21,619
諸経費		¥472,320
当年度収支	¥3,005,037	¥1,379,014
次年度繰越し分		¥2,975,115

## 繰越金の使途

次年度繰越金297万円の一部は、(財)福澤記念育林会が所有する栃木県と茨城県の山林の手入れ(下刈りと除間伐)や学生達の活動補助の一部として使わせていただく予定です。

## 平成15年度会費の預金口座振替の予定日

今年度会費の預金口座振替は、平成15年11月25日(火)に実施させていただく予定です。ご了承の程よろしくお願ひ申し上げます。